

平成 24 年度博士前期課程修士論文
東九州における細石刃文化期の編年研究
—船野型を中心として—

文学研究科文化財学専攻 2 年
M1113001 衛藤美紀

1) 研究目的

本地域では古段階とされる野岳型が他地域と比較して希薄であり、この原因が出現の時期差、または野岳型に代わる細石刃石器群＝船野型が存在していたのではないかと考えた。そこで本論では東九州での細石刃文化出現期の解明のため、船野型の出現期、編年問題について考察していきたい。

2) 形態面からの比較検討

3 タイプをそれぞれの細石刃核の形態・製作技術からその型式内で新旧関係が求められないか検討した。

3) 形式の関係性について

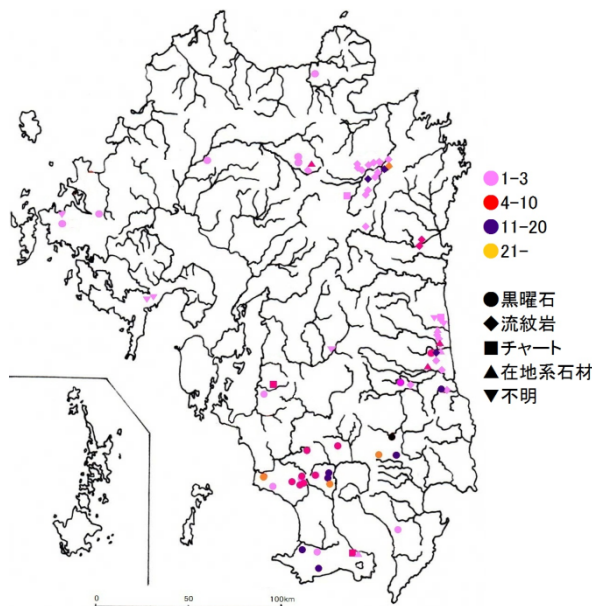
大分県日田市に所在する亀石山遺跡での事例をもとに黒曜石製野岳型石器群と流紋岩製船野型石器群が並存していた可能性が高いことが判明した。

また周辺遺跡の石材組成をみると筑後川流域と大野川流域に別々の地域集団があり、それぞれ交流していた事が窺がえた。

4) 船野型細石刃核の出現期・出自について

船野型はいつ頃から存在していたのであろうか。野岳型からの派生説を基軸に考察した。

図 1 船野型の量・石材別分布図



船野型は大野川流域・宮崎平野周辺・南九州に集中して出土しているが、量別では南九州が一番出土する。南九州の船野型は三船、上牛鼻等在地系黒曜石が多く、船野型は約 19 遺跡で出土しているが、船野型単純組成の遺跡は確認されていない。

宮崎平野では流紋岩等在地系石材が主流で、若干桑ノ木津留産黒曜石も使用される。船野型は 20 遺跡以上で出土する。

図2 南九州の船野型

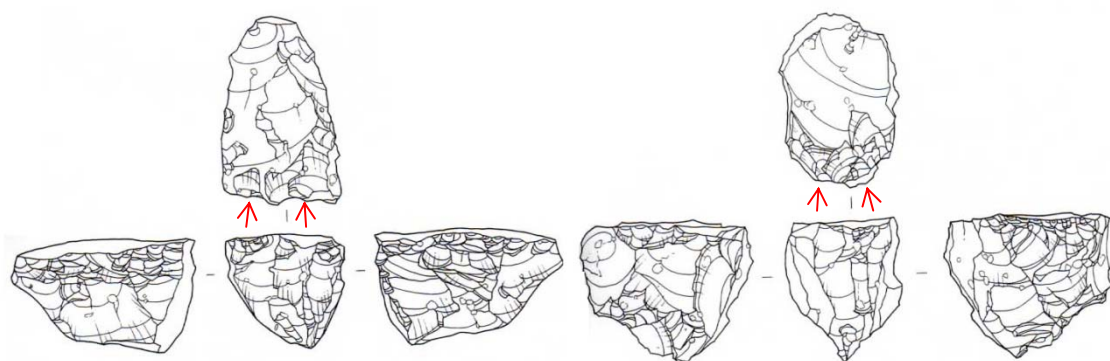
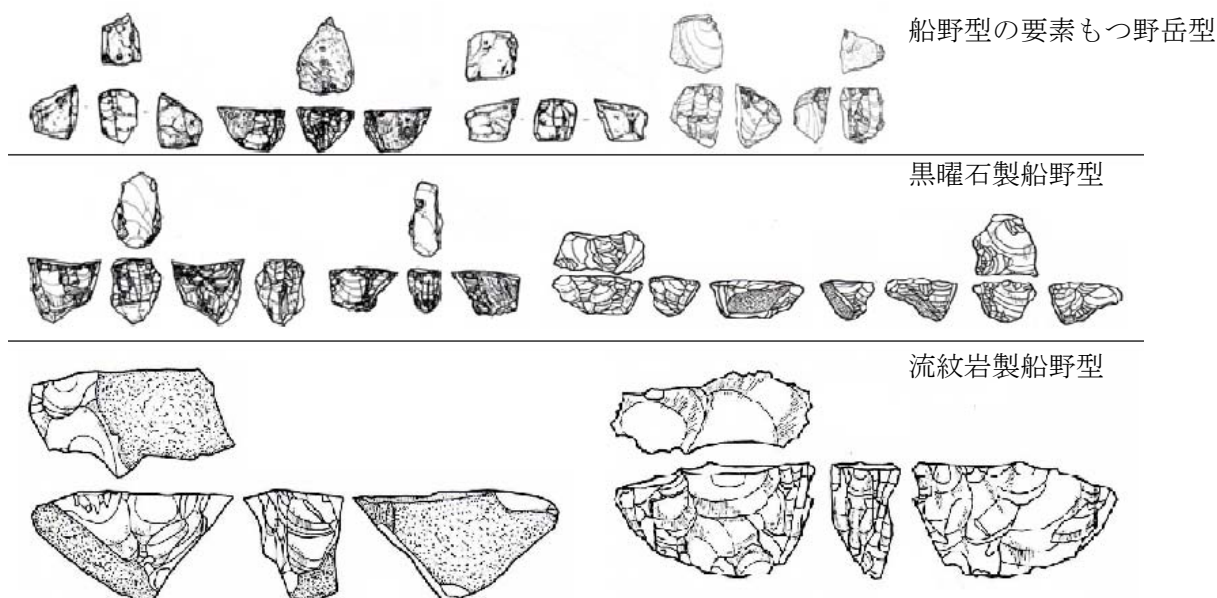


図3 宮崎平野の船野型



南九州の船野型は打面調整が施される場合が多く、福井型の影響を受けた新段階のものであるとし、宮崎平野の船野型は船野型と野岳型の間要素をもつ細石刃核が存在するため、船野型は宮崎平野で野岳型から派生したものと結論づけた。

5) 東九州の細石刃文化期の編年について

船野型は宮崎平野で発生した可能性が高く、この結果から東九州では他地域と比較すると細石刃文化期の出現期が異なっていることが判明した。しかし古段階に位置付けられる亀石山遺跡に船野型が出土することから、さほどの時期差は無いと考えられる。各遺跡をまとめると結果的には他地域と同じように野岳型→船野型→福井型の新旧関係が明らかになり、3タイプは並存していた。